

Publication number: JP4175049

Publication date:

1992-06-23

Inventor:

SAITO SHIGETOSHI

Applicant:

TOKYO SHIBAURA ELECTRIC CO

Classification: - international:

G10L13/00; G06F3/16; G06F13/00; H04M3/42;

H04M3/50; H04M3/533; G10L13/00; G06F3/16;

G06F13/00; H04M3/42; H04M3/50; (IPC1-7): G10L3/00;

H04L12/54; H04L12/58; H04M3/42; H04M3/50

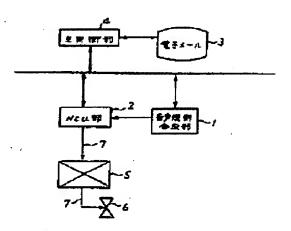
- european:

Application number: JP19900301011 19901108 Priority number(s): JP19900301011 19901108

Report a data error here

Abstract of JP4175049

PURPOSE:To attain the telephone service according to the voice synthesis easily heard by inserting a predetermined character code to a text of an electronic mail by a host station in advance to designate a man/woman voice and a talking speed. CONSTITUTION: When a host station sends an electronic mail with a designation character code of a man/woman voice and a talking speed to a personal computer requesting the reception, the content of the electronic mail of the user is subject to voice conversion by the voice rule synthesis and a predetermined character code is inserted to a text of the electronic mail at the generation and transmission of the electronic mail to designate the man/woman voice and the talking speed, and the content of the electronic mail is heard by the user listening to the mail.



Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

5

⑩日本国特許庁(JP)

①特許出願公開

⑫ 公 開 特 許 公 報 (A)

平4-175049

®Int. Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	❸公開	平成 4 年(1992	2)6月23日
H 04 M 3/50 G 10 L 3/00	A E	9076-5K 8622-5H			
H 04 L 12/54 12/58 H 04 M 3/42	J	9076-5K			_
		7830-5K 雍	H 04 L 11/20 杏鯖求 未鯖求 st	101 音求項の数 1	B (全4頁)

会発明の名称 音声応答装置

②特 頤 平2-301011

②出 願 平2(1990)11月8日

D 発明者 斉藤 成利 D 出願人 株式会社東芝 神奈川県川崎市幸区柳町70番地 株式会社東芝柳町工場内

神奈川県川崎市幸区堀川町72番地

四代 理 人 弁理士 則近 懸佑 外1名

U) ku T

発明の名称
 音声応答装置

2. 特許期次の範囲

だ話回線の制御手段と、文字列の遊信手段と、 就子ファイルの記憶手段と、電子ファイルの管理 手段と、入力文字列にアクセントを付与し音声合成する規則合成手段と、PB(ブッシュボタン) 輸出手段とを確えるパソコン遊信の 始結サービス であって、程子メールの作成時に、あらかじめホスト局で定めてある文字コード列を、 地子メール のテキストに挿入することにより、別/女音や 免話速度の指定を行うことを特徴とする音声応答 装置。

3. 発明の詳細な説明

[発明の目的]

(应衆上の利用分野)

本発明は、所定の規則により任意文字から音 声を生成する音声規則合成を電話サービスに応用 した音声応答装置に関する。 (従来の技術)

ごのサービスでは、聞き易いものにするため、例えば、電子メールの選択などのサービスのガイド音声を女声合成音、ユーザ宛でのメール内容の音声出力を男声合成音というように、あらかじめサービスを行うホスト 同側で、出力する音声を定めている。また、速度についても、普通の発話速度(1 秒間に 4 モーラ程度)に決められている。

特開平4~175049(2)

しかしなから、ユーザによっては、効果的に電子メールの内容を聞かせるため、客户合成する性子メールの作成時に、男/女音の指定や、発話適度の変更を行いたいという要望があり、現状の方式ではこの要望に答えることができないという問題点があった。

(発明が解決しようとする課題)

本発明は、このような事情を考慮して成されたもので、その目的とするところは、パソコン通信で、電子メールの作成送信時に、男/女者の指定や、発話達度の指定をすることができ、電子メールの音声合成による電話サービスの行える音点応答数据を提供することにある。

(発明の構成)

(課題を解決するための手段)

本発明は、この目的を実現するために、パソコン通信でセンターに送られた電子メールの内容を音声規制合成益質によって音声に変換し、ユーザに電話サービスする益質において、あらかじめ定めておいた文字コードを、電子メールの作成送

は時に、 電子メールのテキストに様人することにより、男/女音の指定や、免跡速度の指定をできるようにし効果的に、電子メールの内容を聞かせるようにしたものである。

(AE COL)

本発明によれば、あらかじめ定めておいた文字コードを、電子メールの作成必信時に、電子メールの作成必信時に、電子メールのテキストに挿入することにより、男/女音の指定や、免話達成の指定をすることができる。また、装置の利便性が向上し、装置の伝達、広告能力を大幅に増大することができる。

(St 16 W

以下、本党明の一実施例の詳細を図面に基いて説明する。

第 3 図は、パソコン通保システムの構成図である。ユーザは、パソコン 3 6 あるいは、ワープロをモデム 3 3 に接続し、 就話回線 3 4 を使いホスト局のコンピュータ 3 1 にアクセスする。 第 6 図に、本発明の、男/女音の指定や、発話速度の

ところで、電子メールのテキスト5 cに使用 されているま 【、ま 2 、まm、ま 3 等は、本発明 の特徴となるもので、ホスト局のあらかじめが ておいた文字コード列である。電子メールの作め 送信時に、電子メールのテキストにこれらの文字 コード列を挿入することにより、男/女音の指定 や、免話速度の指定をすることができる。また、 この粒子メールを送られたユーザは、電話により 効果的に、男/女音の指定や発話速度の指定がさ れている電子メールのを聞くことができる。第4 図にホスト局が定めている男/女声や、発話速度 の指定するための文字コード例を示す。第4図に したがって、節5凶の世子メールのテキストを音 声合成する場合について説明する。まず、デフォ ルトモードが男声音、普通の発話速度(#m、# 3)となっているので、「全体会議のお知らせて す」が、別声音、普通の発話速度で音声規則合成 される。次に、ましま2が入力されていることに より『全体会議を行います』が、女声音、やや途 い発尿速度で容声規則合成される。続いて、井田 # 3 により『日時は、 5 月 2 1日月曜日午前10 時から12時までです。」が、男声者、普通の発 話速度で音声規則合成される。

以下、『場所は~以上です』は同様にして第 4 図の文字コードにしたかって音声規則合成され

特開平4-175049 (3)

次に、この電子メールが送信されたユーザ (RUPOII)が電話をかけてこの電子メール を明く装置について説明する。

第1 図は、本処明の電子メールを聞く装置の 実施例の構成を示すプロック図である。同図において1 は各声規則合成部、2 は N C U 部、3 は電子メール、4 は主制御部である。なお、3 はパソコン通信によりホスト局に送信されたディスク32に記伐された電子メール(第5 図)と同じものである。

ユーザ (R U P O 1 7) が、パソコン通信の音声サービスへダイヤルすると、N C U 部 (梵話回線制御部) 2 が奇信を検出する。ユーザは、ガイド音声に従い、P B (ブッシュボタン) により、I D 番 号と時 紅 番 号 を入力し、 第 5 図に示した 地チメールの音声サービスを受けることができる。

さらに登声規則合成について、第2関の音声 規則合成部のブロック図を用いて規則する。

11は文字列を解析し、続み辞書12を参照 してアクセント位置を検定し、音韻記号列と記律

なお、電子メールの内容をパソコン通信の音声サービスにより合成音で聞くのではなく、パソコンにより受信する場合に、男/女音や免話速度の指定文字コードであるまm、まし、ま1~5が受信回のパソコンのディスプレイに表示されて頃しいということがある。この場合には、ホスト局

で男/女音や、発話適应の指定文字コードが入ったボ子メールを受信を要求するパソコンへ送る際に、これらの指定文字コードを取録いて、送ることが考えられる。

[短期の効果]

以上詳述したように本見切によれば男/女音

の指定や、免結適度の指定ができ、聞きやすい音 声合成による世話サービスの行える音声応答装置 を提供できる。

4. 岡頭の間単な説明

第1 図は水免明の音響応答装置の実施例を示したプロック図、第2 図は第1 図に示した音声規則合成都の詳細を示したプロック図、第3 図はパソコン通信のシステム構成図、第4 図はホスト局が定めた男/女声や、発話速度を指定するための文字コード例、第5 図は音声変換する電子メールの内容例、第6 図はパソコン通信で音声用電子メールを送信する場合の整線図である。

1: --- 金 卢 思, 酚 合, 或, 部;

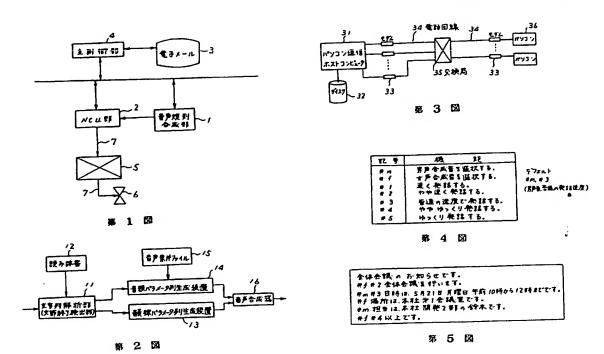
2 N C U 85

3 …… 低子メール

4 ……主制到部

代型人 弁型士 벬 近 塩 化

特開平4-175049 (4)



```
(1) 電子メール
(2) 個人アット
(3) の人アット
(EAST) 計画
(EAST) 計画メール
計画メール 数 1 - 更佳 2 - 当性 4 - 到達権税 E - 許3
より
この
(近信): 電子メール
メール・ア
金体を観めたかりらせの
テマスト?
会体を観めたかりらせの
テマスト?
会体を観めたかりらせず。
のかる事時により214月提出が前10時から1219までです。
のがは本社第1分数をです。
のがは本社第1分数をです。
のがは本社第1分数をです。
のがは本社第1分数をです。
のがは本社第1分数をです。
のがは本社第1分数をです。
のがは本社第一分数をです。
のがは本社第一分数をでするとです。
のがは本社第一分数をでするとです。
のがは本社第一分数をできたい。
のがなるとできたい。
のがなる。
```

第 6 図